

カードが家族に安心を与えているとの実感が医療機関にも保健機関にも共通の認識となっていた。また同管内では、このプロジェクトの進行に呼応して、医療機関・保健機関間の連絡票の利用件数が増加を認めていた。保健所としても同時に連絡票の書式の改定や利用方法の明確化、連絡会の開催などの取り組みを行っている。このプロジェクトが連絡票の利用数増加に及ぼす影響は間接的なものではあるが、連絡票を利用するまでもない状況でも電話連絡することが多くなったとの意見もあった。

ただ1年目の連絡会では、プロジェクトをはじめてもスタッフの意識の変化や子育て支援についての共有化はあまり進んでいないことが今後の課題として挙げられた³。しかし本年度のカード利用状況調査や今後の継続に対する意見では、2年目になってカードの利用状況はむしろ進んでおり、保健所も含めすべての機関がカードの利用は続けたいとの意見であった。総じてプロジェクトの継続によって、現場スタッフの子育て支援を行っているという意識は、徐々に変化の現れていることが示唆された。

Ⅲ. プロジェクトの今後の展開

プロジェクトは、一か所の保健所管内での成果を受けて、隣接する保健所管内に拡大した。関係機関数も倍増し、対象となる人口も増加した。隣接する保健所での展開が可能であったのは、同管内の地域中核病院が最初の保健所管内の住民の分娩・出産の受け皿としても機能していること、数年前から保健所と自治体、医療機関がEPDSを用いた産後うつ病のスクリーニングに始まる支援を継続していたことなども関連があると考えられる。プ

ロジェクトの企画や運営には、最初の保健所の場合と同様に保健所の呼びかけで管内関係機関の連絡会の実施や機関間の調整も行われたことが重要である。つまり、このプロジェクトの展開には、県型保健所のコーディネート役割が求められる。

どちらの保健所においても連絡会の構成メンバーは、医療機関・助産施設の助産師・看護師と保健機関の保健師である。本来看護職として共通の基盤を持つもの同士が、医師の了解のもとに、日常業務の中で子どもと家族により近い立場から連携をすることも、プロジェクトの展開のたいせつな要素である。

それぞれの機関では、現場の状況に合わせたカードの利用方法がとられている。医療機関の中には、裏に保健機関のシールを添付するのがたいへんなので、病院のみのカードとして利用している場合もある。また、保健機関でも家庭訪問や窓口で直接手渡す以外に健診などで全員に配布している場合もある。医療機関では受付においてあるだけの場合もあるが、そうした場合でも、枚数は着実に減っているという。このプロジェクトにおいて、もっとも優先される目的は、共通の相談窓口を作ることや、相談体制を整備することではない。プロジェクトの目的は、子育てを始める母に安心を提供することである。安心を伝える方法には、それぞれの現場に応じたさまざまな形があつてよい。

そうした意味で、このハローファミリーカード・プロジェクトの理念は、すでに全国的に伝わっている例がある。昨年度の報告書でも紹介したが、宮城県多賀城市においては、このプロジェクトのコンセプトに基づいて、保健機関独自の取り組みが始まっている。同市では、母子手帳交付ほかの保健師の窓口等

での対応時に、「新生児訪問にうかがいます」と「多賀城市の母子保健サービス ～お子さんのすこやかな成長と安心して子育てできることを願って～」とのタイトルで、2種類のA6サイズの事業内容などを印字した小さなちらしを作り、住民一人ひとりに手渡しているという。ハローファミリーカードの保健センター版ともいえる。

また、岡山市にある産科小児科診療所サン・クリニックでは、常勤の保健師が、自らの似顔絵とクリニックの電話番号などとともに「一人で悩まないでください。未来からの大切な贈りものを育むお母さん。私たちはいつでもどんな時でも見守っています。」とのメッセージを1枚のカードにして、外来や入院中に出会った気になる母に手渡し始めている。このカードのアイディアは、ハローファミリーカードにある。岡山市から里帰り出産したある母が、私たちのプロジェクトの関係機関で出産した。その時に病院スタッフからこのカードをもらい、岡山に帰ってから同クリニックで自慢げにこのカードを見せたのが、同クリニックでカードを利用することになった契機である。そもそもこのクリニックは、ユニセフの赤ちゃんに優しい病院 (BFH) の認定もあり、「外来託児&母親学級託児」、「お楽しみ託児」などの医療機関が独自に行うファミリーサポート活動や、「にこにこフリーマーケット」という地域通貨活動、育児サロン・サークル、孫育てセミナー、自然食料理教室ほか活発に子育て支援に取り組んでいるクリニックである。そうした素地があったからこそ、カードを見ただけでなんの説明もなしにプロジェクトの理念が伝わったものと考えられる。

もともと、このカードは、愛媛県の松山赤

十字病院におけるハローベビーカード⁴の取り組みをモデルとしている。こちらは同病院独自のカードであったものを、地域との連携のコンセプトに発展させたものがハローファミリーカードである。本年度の研究の中で松山市を訪問した折には、同市の子育て支援相談室の保健師と赤十字病院の医師や看護師、同病院の研修を終了した「傾聴ボランティア」などが密接に連携して、周産期から始まる虐待予防活動の紹介を受けた。その後、同市の保健所との話し合いなどが行われ、同赤十字病院も含めた複数の産科医療機関と松山市の間で共通のカードを利用した連携の準備が始まっている。ハローファミリーカードの里帰りといえよう。

プロジェクトは、本研究班の医療機関と地域との連携の促進という研究の枠組みの中で実施してきた。本年度でこの研究班は終了するため今後の愛知県内での継続について検討した。医療機関の患者受診地域と保健機関の管轄地域とにずれがあることなど、単一の保健所のみではこの事業は担いきれない。当センターは、県の小児保健医療の中核的支援拠点である。その機能の中で、今後とも県型保健所の協力を得ながら、対象地域を県内の別の保健所管内に拡大したプロジェクトの継続を、当センターの2008年度事業として計画している。

取り組みの形態はさまざまではあるが、子育てを始める母に安心を与えるためのツール、支援者自らが子育て支援に取り組む姿勢を共有化するためのツールという基本コンセプトは同じである。全国各地のお国自慢プロジェクトの展開されることがおおいに期待される。

E. 結論

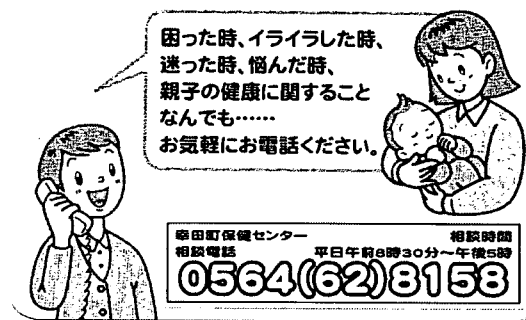
妊娠・出産というライフ・イベントを契機

とし、周産期から医療機関と保健機関が協働して行う虐待予防の取り組みは、多くの成果が期待できる分野である。地域の関係機関が協働してカードの利用を促すことにより、現場のスタッフにとって、母を支える自らの役割を明確にすることが可能となった。子育てをはじめ母に安心を与えるツールとして、

また、支援者自らが子育て支援に取り組む姿勢を共有化するためのツールとして、さらにこうした子育て支援が地域の関連機関スタッフ相互で共有されることで地域づくりにつながる点においても、プロジェクトの有用性が示された。



医療機関・助産施設の記入例



保健機関の記入例（シール添付）

図5. ハローファミリーカードの実例

【参考論文】

- 1 山崎嘉久ほか：児童虐待発生要因の解明と児童虐待への地域における予防的支援方法の開発に関する研究. 子育て支援に視点をのこした医療機関から保健機関等自治体への連絡方法に関する考察. 平成15年度厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書2004：651-660.
- 2 山崎嘉久、塩之谷真弓：地域の医療機関と保健機関とで支える地域の子育て支援活動への介入的研究. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）「児童虐待発生要因の解明と児童虐待への地域における予防的支援方法の開発に関する研究」分担研究報告書. 2005：264-273.
- 3 山崎嘉久ほか：地域の医療機関・助産施設と保健機関とが連携した子育て支援ツール「ハローファミリーカード」導入後の短期的評価. 住民参画と保健福祉の協働による子育て機能の向上・普及・評価に関する研究 平成18年度総括・分担研究報告書：36-48, 2007.
- 4 小谷信行ほか：事例報告「ハローベビー・カード」による24時間母児支援の取り組み. 平成15年度厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書：665-668, 2004.

<共同研究報告書>

子育て支援への住民参加を促進するための養成と活用システムの体系化に関する研究

—東京都板橋区の子育て支援者養成講座の受講生評価を通して—

共同研究者 中村 敬
大正大学人間学部人間福祉学科社会福祉学専攻教授

【研究要旨】

次世代育成支援対策推進法に基づき、平成16年に各自治体とも地域行動計画を策定し、その実現に向けて行動を開始している。今回、一つのモデルとして、地域の子育て支援活動を拡大するために、子育て支援に携わる人材の養成とその活用のシステム化に着手している東京都板橋区の事例を紹介したいと思う。

東京都板橋区では、平成17年度に地域の子育て支援活動に参加する子育て支援者の養成に着手した。この子育て支援者養成講座は3つのレベルに分け、1級講座は地域の子育てコーディネータやNPOを起業する人材を養成するものとし、2級講座は主として、子どもの支援に携わる現場で子育て支援に従事する人を養成するものとし、3級講座は子育て支援者の入門講座という位置づけで、主として子育て支援の現場でボランティアとして活動する支援者や子育ての当事者である親や祖父母も受講できるように配慮している。2級講座はファミリーサポートセンターの援助会員等として活動するために必要な講座にもなっており、3級講座修了者を対象としている。

現在、3級および2級講座は完成しており、多数の研修修了者を輩出している。現在、地域におけるコーディネータ機能を発揮できる人材育成のために1級講座の構築を準備中である。今回は、すでに軌道に乗っている3級課程の各講座に対する受講生の評価をまとめ、講座の改善に役立てるための手法を検討したので報告する。

見出語 子育て支援者 養成講座 受講生による評価 CS分析

A. 研究の目的

子育て支援は、自治体における次世代育成支援対策推進法に基づく地域行動計画の策定にとともに、子育て支援サービスを充実させるためにさまざまな工夫が講じられている。今回は、この目的のために、地域住民の子育て支援への参加意識を高め、子育て支援者を育成するための養成システムの構築を目指している東京都板橋区を事例として取り上げ、その展開過程における各講座に対する受講生の評価結果（満足度）を分析したので報告する。

B. 研究の対象と方法

対象は東京都板橋区において、平成17年度に計画がスタートした子育て支援者養成システムは、子育て支援者の養成が目的であり、地域住民の子育てへの積極的参加を呼びかけるものである。

資料は3級課程を受講した受講生による、①「講義は理解できたか」、②「あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」、③「テキストはわかりやすかったか」、④「講義内容に満足できたか」、⑤「講義時間は適切であったか」の5つの評価項目について、各講座ごとに回答してもらい、3級講座全体に対する総合評価を目的変数とするCS分析¹⁾を試みた。

対象は3級課程受講生全員として、208名

から回答を得た。3級課程講座は、(1)オリエンテーション、(2)子育て支援がなぜ必要か、(3)子育て中の親と子どもへの支援、(4)子育て中の家庭と子どもの理解、(5)子育て支援者の役割と倫理、(6)子どもと遊び、(7)子どもの生活への対応、(8)母親の体と心の理解、(9)子どもの体の成長と心の発達、(10)実習コース、(11)板橋区の子育て社会資源と有効活用、(12)配慮の必要な子どもの理解、(13)講座の終了にあたって、の13講座から構成されており、各講座ごとに上記評価5項目について、5件法によるリッカート尺度を用いた選択肢を用意し回答してもらった。分析はCS分析の手法を用いて、総合的満足度(研修終了時の総体としての3級課程受講満足度)を目的変数として、各講座ごとの評価項目について、改善すべき点を抽出した。

CS分析は、各講座の評価項目(上記5項目)に対する「5.大変満足した」と回答した比率(%)を「満足率」とした。また、各評価項目ごとの得点(1点~5点)と総合評価の満足度(1~5点)得点との単相関係数を算出した。なお、各評価項目の得点と総合評価における満足度との単相関係数を「重要度」と表現した。これらを基にして、CS分析により、「改善度」を算出し、改善度の大きい評価項目を改善することにより、総合的評価(満足度)をさらに高めることができる。

C. 研究結果

1) 各講座ごとの改善度

(1) 「オリエンテーション」においては、改善すべき評価項目は、「④講義内容に満足できたか」であり、この評価項目を改善する工夫をすることにより、受講生の総合評価が高まるものと考えられた。(表I.1)。

(2) 「子育て支援がなぜ必要か」においては、「④講義内容に満足できたか」と「②あなた自身の学習課題やニーズが達成された

か」の2つの評価項目を改善する工夫をすることにより、受講生の総合的評価を高めることができる(表I.2)。

(3) 「子育て中の親と子どもへの支援」においては、評価項目「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」を改善することにより、受講生の総合評価を高めることができる(表I.3)。

(4) 「子育て中の家庭と子どもの理解」では、評価項目「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」と「④講義内容に満足できたか」を改善することにより受講生の総合評価を高めることができる(表I.4)。

(5) 「子育て支援者の役割と倫理」では、評価項目の「④講義内容に満足できたか」「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」を高めることにより、総合評価を高めることができる(表I.5)。

(6) 「子どもと遊び」では、「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」の評価項目を高めることにより、総合評価を高めることができる(表I.6)。

(7) 「子どもの生活への対応」では、「③テキストはわかりやすかったか」と「④講義内容に満足できたか」の評価得点を改善すること、さらに「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」の得点を高めることにより総合評価を高めることができる(表I.7)。

(8) 「母親の体と心への理解」では、「④講義内容に満足できたか」「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」の満足度を高めることにより、総合評価を高めることができる(表I.8)。

(9) 「子どもの体の成長と心の発達」では、「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」「④講義内容に満足できたか」の評価得点を高めることにより総合得点を高めることができる(表I.9)。

(10) 「実習」では、3コース全体として、「②あなた自身の学習課題やニーズが達成

されたか」と「③テキストはわかりやすかったか」の評価得点をたかめることにより、総合得点を高くすることができる(表Ⅰ.10)。(11)「板橋区の子育て社会資源と有効活用」では、「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」、「④講義内容に満足できたか」の2項目の評価得点を高めることにより総合評価をさらに高めることができる(表Ⅰ.11)。

(12)「配慮の必要な子どもの理解」では、「③テキストはわかりやすかったか」、「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」の2項目の評価得点が上がれば、総合得点を高めることができる(表Ⅰ.12)。

(13)「講座の終了にあたって」では、「④講義内容に満足できたか」講義内容の満足度を高めることと、「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」の2項目の評価得点を高めることにより、総合得点を高めることができる(表Ⅰ.13)。

各講座ごとの改善点を求めると、上記のようになるが、改善度の大きさには講座による差異がある。そこで、各講座の評価項目ごとに、どの講座で改善を工夫したら、研修講座全体に対する満足度が高まるかをCS分析により検討した。

2) 評価項目ごとの講座別改善度

評価項目ごとに改善することによって、全体の受講生の満足度を高めることができる講座名は何かについて検討してみた。

(1) 評価項目「①講義は理解できましたか」では、「講座の終了にあたって」「子どもの体の成長と心の発達」「子育て中の家庭と子どもの理解」「子育て支援がなぜ必要か」の4つの講座でこの評価項目の得点を高める工夫が必要である(表Ⅱ①)。

(2) 評価項目「②あなた自身の学習課題やニーズが達成されたか」では、「講座の終了にあたって」「子育て支援がなぜ必要か」「子

どもの体の成長と心の発達」「子育て中の家庭と子どもの理解」の4講座のこの評価項目の得点を高める工夫が必要である(表Ⅱ②)。

(3) 評価項目「③テキストはわかりやすかったか」では、「講座の終了にあたって」「子どもの体の成長と心の発達」「子育て中の家庭と子どもの理解」「子どもの生活への対応」の4講座のこの評価得点を高める工夫が必要である(表Ⅱ③)。

(4) 評価項目「④講義内容に満足できたか」では、「オリエンテーション」「講座の修了にあたって」「子どもの体の成長と心の発達」「子育て支援がなぜ必要か」「子育て中の家庭と子どもの理解」の5講座のこの評価得点を高める工夫が必要である(表Ⅱ④)。

3) 各講座の評価項目すべてを独立変数として、「総合評価」を目的変数とするCS分析を行うと、表Ⅲのようになる。

表は改善度の高い項目順に並べてあるが、先ず「オリエンテーション」における「講義内容の満足度」を高める必要があるようである。次いで、「講座の終了にあたって」における「受講生の持つ学習課題とニード」を高めることと、「講義内容の満足度」を高める工夫が求められる。さらに、「子育て支援はなぜ必要なのか」と「板橋区の子育て社会資源と有効活用」における「受講生の持つ学習課題とニード」高めることが求められる。「講義の終了にあたって」は「テキストのわかりやすさ」を工夫する必要があるようである。

D. 考察

1) 板橋区における取り組み

多様な子育て・子育て支援が求められる今日、地域における子育て支援者の数が十分とはいえない。子育て支援者は、保育園保育士・看護師などのように資格が必要なものもあるが、一定の研修を受ければ従事できる仕事や

特に資格や研修を必要としないものもある。選考を経て就労する子育て支援者もあるが、希望するものの多くは、広報の募集記事を見たり、たまたまその施設等とつながりがあった応募してきたという場合が殆どである。しかし、受け入れる側も応募する側も十分な情報がないまま、仕事に従事する場合も少なくない。

また、多種多様な子育て支援が求められる今日、一時保育を実施する事業所の責任者や学童クラブなどの民間委託の際の責任者など、組織や事業所の責任者や経営者になりうる人材が不足している。さらに、地域では大勢のボランティアが絵本の読み聞かせ、囲碁・将棋指導など、児童館などの活動内容を豊かにしている。しかし、専門家に協力して、一時的に子どもを保育してくれるようなボランティアはまだ不足しているのが現状である。小学生にとってはいろいろな大人と接することが成長の糧となり、ボランティアの数や受け入れ体制が十分でなく、ボランティアの出入りが少ない子どもの施設もある。ボランティアを希望する人が少ないのは、「子どもの世界に受け入れられるかどうか不安」「子育ての知識や技能がなくて不安」「どのように始めたらよいかわからない」などの意見からわかるように、一定の知識と経験がないために一歩を踏み出せないでいるのが現状である。

このために、板橋区では、子育て・子育て支援に携わるさまざまなレベルの人を養成し、養成した人を、希望する子育て・子育て支援の仕事やボランティア活動に結びつけていくための「子育て支援者養成と活用のしくみ（子育て支援者養成システム）」を策定している。²⁾

2) 子育て支援者養成講座のレベル

子育て支援者養成システムの基礎となるのは養成講座の受講である。講座は3級・2級・1級の3課程で構成されている。現在まで、例えばファミリー・サポート・センター援助

会員になるための講習や、民間のベビーシッターになるための研修はあったが、さまざまな子育て支援の場面やその活動レベルに対応した総合的な養成講座は、恐らく全国でも初めての試みと思われる。

(1) 3級講座

これは子育て支援入門者養成講座であり、子育て支援者を目指す人のための入門編である。内容は子育て支援者としてのボランティア養成と子育てを学ぶ祖父母や子育て中の親を含めた基礎編としており、実習を含め30時間のカリキュラムとした。修了者の活動従事場所は、健康福祉センターの乳幼児健診、児童館、保育園、ひろばやサロンにおけるボランティアを想定している（平成18年3月立ち上げ）。

(2) 2級講座

これは子育て支援従事者養成講座であり、3級講座を基礎として受講する仕組みになっている。実際にはファミリー・サポート・センター援助会員、保育園・児童館等の臨時職員、育児支援ヘルパー、一時保育者などで、有償ボランティアを含む報酬を得て、子育て・子育て支援の仕事に従事する人の養成をめざしており、基礎編・実践編の講義・実技と実習で50時間のカリキュラムを構成している（平成19年2月立ち上げ）。

(3) 1級講座

これは、まだ完成はしていないが（平成20年立ち上げ予定）、子育て支援リーダー養成講座であり、子育て支援・子育て支援団体のリーダー・責任者、2級、3級講座修了者のリーダー、子育てアドバイザー、子育て支援団体・NPOなどを起業しようとする人の養成を想定している。また、地域の子育て支援コーディネータの養成も視野に入れており、子育て支援ネットワーク構築にも一役買ってもらえる人材の養成が求められている。内容的には、セミプロ養成を目標としており、スーパーバイザーになることを想定した子ども

に関する講義・実技などのほか、人事管理、経営管理などを予定している（時間は未定、現在検討中）。

今日、話題になっている国の施策である「こんにちは赤ちゃん事業」すなわち、生後4カ月までに地域の全乳児を家庭訪問するという事業であるが、この訪問者をいかにリクルートするかがこの事業のポイントになる。板橋区では現在計画中であるが、本養成講座修了者に訪問を委嘱することを考えている。

3) 受講生による評価

現在、さまざまな社会サービスが構築され広く地域社会に展開されている。これらのサービスがそのサービスを利用する側にとってどの程度有効に作用しているかを科学的に検証することが求められている。今回は、すでにシステムとしては完成している3級課程の講座を受講した受講生からみた各講座の評価（4つの評価項目）から、3級課程全体に対する評価（総合的満足度）をさらに高めるためには、どの講座のどの部分を改善すべきかについて、CS分析（顧客満足度分析）の手法を用いて検討した。CS分析は各講座評価項目（5項目のうち4項目、講義時間の適切さに関する評価を除く）を独立変数、3級課程総合評価（満足度）を目的変数とした。各講座評価項目の満足率（%）は、その評価項目に対して「大変満足である」と回答したものの比率であり、比率が高いほど、受講生に高い満足感を与えていることになる。さらに、3級課程総合評価（1～5の得点）を高めるために、どの講座のどの評価項目の改善が必要かをみるために、各講座評価得点（1～5の得点）と総合評価得点の相関係数（重要度）を算出した。これは、総合評価を高めるための各講座の評価項目の重要性を表しており、重要度と表現した。

CS分析は各講座ごとの評価項目の満足率と重要度から改善度を求め、優先して改善すべき内容を抽出する手法である。改善度はその

数値が大きいほど改善すべき優先度が高いことを示している。

今回の分析では、総合的に見ると、「オリエンテーション」や「講座の終了にあたって」で改善を求められる点があることを示している。また、講義の理解度はどの講座でも高く、とくに優先して改善すべき点としては抽出されなかった。講座全体として、さまざまなニーズを持つ区民にとって、「学習課題とニーズ」で評価点が辛い結果を示していた。総合的満足度を高める手段として、「受講生の学習課題とニーズ達成度」を高める工夫が求められるが、これは、それぞれのニーズに合わせたスモールグループによる勉強会などのグループワークが必要になると思う。ぜひ、将来の1級課程卒業生がコーディネータを務めるグループワークへと発展させるを望みたい。コーディネータは実際の地域活動実践に即したテキストづくりにも参加できる力を身につけることを望みたい。また、単なる集合研修ではない講義手法も、今後のフォローアップ研修に取り入れる必要性を示唆しているものと思われる。

3級課程では、テキストの執筆者と講師が必ずしも同一人ではなく、執筆者と異なる講師が担当することもあり、その影響がどこまであるのか気になるころであったが、唯一、「配慮の必要な子どもの理解」での評価項目別改善度をみると、執筆者と講師が同一人ではないためか、講師の伝えたい内容とテキストに記されている内容のギャップが表面化したと思われる結果を示していた（表I.12）。

今回示した結果は、あくまで数量的処理によるものであり、各講座に対する満足率は高く、初期段階では有益な養成講座になっていると推測される。

現在（2007年12月現在）の3級講座修了者は、298名であり、このうち約3割が子育て支援のための活動に参加している。今後、さらに活動への参加比率を高める工夫が必要であ

る。

<文献・資料>

E 今後の課題

今後も養成講座の質を保持するために、一定の受講生による評価を継続する必要がある。評価項目の記入の煩雑さが問題になるので、さらにコンパクトな評価項目の開発が必要になる。

F 結論

- 1) 板橋区において実施されている「子育て支援者養成講座」の受講生による13講座の評価(満足度)をCS分析を用いて検討した。
- 2) 各講座ごとに改善すべき項目を改善度で表した。
- 3) 3級課程全体の受講満足度を表す総合評価を高めるために優先すべき改善点を提示した。

1) 菅民郎著 「CS分析」、『Excelで学ぶ多変量解析入門』Ohmsha、平成13年 付録CD版アドインソフト

2) 中村 敬：「子育て支援への住民参加を促進するための養成と活用システムの体系化に関する研究—東京都板橋区の事例を通して—」、前川喜平『平成18年度厚生労働科学研究補助金(子ども家庭総合研究事業)「住民参画と保健福祉の協働による子育て機能の向上・普及・評価に関する研究」分担研究「住民参画と保健福祉の協働による子育て機能の向上・普及・評価に関する研究」』、平成18年度共同研究者報告書

表 I. 各講座毎の改善すべき評価項目

1. オリエンテーション

	満足率	重要度	改善度
④講義内容に満足できましたか	37.6	0.46	12.78
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	28.5	0.25	1.17
③テキストはわかりやすかったですか	56.2	0.33	-3.30
①講義は理解できましたか	64.2	0.28	-10.89

2. 子育て支援がなぜ必要なのか

	満足率	重要度	改善度
④講義内容に満足できましたか	51.2	0.46	8.01
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	37.1	0.41	6.22
③テキストはわかりやすかったですか	51.0	0.38	-4.79
①講義は理解できましたか	63.6	0.39	-11.21

3. 子育て中の親と子どもへの支援

	満足率	重要度	改善度
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	45.1	0.34	20.65
③テキストはわかりやすかったですか	60.0	0.32	-0.83
④講義内容に満足できましたか	55.8	0.31	-1.38
①講義は理解できましたか	65.7	0.30	-17.25

4. 子育て中の家庭と子どもの理解

	満足率	重要度	改善度
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	36.9	0.38	7.33
④講義内容に満足できましたか	48.3	0.42	5.60
③テキストはわかりやすかったですか	48.0	0.39	1.10
①講義は理解できましたか	56.9	0.34	-19.26

5. 子育て支援者の役割と倫理

	満足率	重要度	改善度
④講義内容に満足できましたか	58.9	0.41	8.15
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	47.5	0.38	3.30
③テキストはわかりやすかったですか	58.9	0.37	-4.80
①講義は理解できましたか	70.9	0.39	-6.83

6. 子どもと遊び

	満足率	重要度	改善度
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	44.7	0.33	16.58
④講義内容に満足できましたか	61.4	0.29	1.76
③テキストはわかりやすかったですか	60.6	0.27	0.60
①講義は理解できましたか	76.4	0.16	-20.36

7. 子どもの生活への対応

	満足率	重要度	改善度
③テキストはわかりやすかったですか	53.6	0.44	7.14
④講義内容に満足できましたか	51.5	0.39	4.24
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	43.4	0.34	3.60
①講義は理解できましたか	66.8	0.30	-19.19

8. 母親の体と心への理解

	満足率	重要度	改善度
④講義内容に満足できましたか	45.6	0.35	8.99
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	35.6	0.21	3.37
③テキストはわかりやすかったですか	56.2	0.31	0.06
①講義は理解できましたか	60.3	0.17	-16.29

9. 子どもの体の成長と心の発達

	満足率	重要度	改善度
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	27.3	0.32	11.57
④講義内容に満足できましたか	33.7	0.34	4.93
③テキストはわかりやすかったですか	38.3	0.31	-3.45
①講義は理解できましたか	36.6	0.22	-13.06

10. 実習（コース別）

	満足率	重要度	改善度
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	50.3	0.36	17.40
③テキストはわかりやすかったですか	55.7	0.34	3.91
④講義内容に満足できましたか	59.9	0.33	-3.33
①講義は理解できましたか	72.0	0.32	-17.37

11. 板橋区の子育て社会資源と有効活用

	満足率	重要度	改善度
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	43.2	0.4317	9.14
④講義内容に満足できましたか	52.3	0.4357	6.28
③テキストはわかりやすかったですか	60.6	0.4532	2.38
①講義は理解できましたか	71.2	0.3470	-20.58

12. 配慮の必要な子どもの理解

	満足率	重要度	改善度
③テキストはわかりやすかったですか	57.5	0.46	7.99
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	44.3	0.37	6.54
④講義内容に満足できましたか	56.6	0.34	-2.50
①講義は理解できましたか	70.4	0.32	-15.35

13. 講座の修了にあたって

	満足率	重要度	改善度
④講義内容に満足できましたか	45.5	0.50	8.49
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか	40.1	0.46	6.31
③テキストはわかりやすかったですか	48.6	0.48	0.62
①講義は理解できましたか	54.9	0.42	-20.50

表Ⅱ. 評価項目別講座の改善度

①講義は理解できましたか

講座名	満足率	相関係数	改善度
講座の修了にあたって	54.9	0.42	14.87
子どもの体の成長と心の発達	36.6	0.22	7.63
子育て中の家庭と子どもの理解	56.9	0.34	7.00
子育て支援者がなぜ必要なのか	63.6	0.39	5.88
子育て支援者の役割と倫理	70.9	0.39	1.49
板橋区の子育て社会資源と有効活用	71.2	0.35	-0.87
子育て中の親と子どもへの支援	65.7	0.30	-1.47
子どもの生活への対応	66.8	0.30	-1.64
オリエンテーション	64.2	0.28	-1.66
配慮の必要な子どもの理解	70.4	0.32	-2.24
実習コース別	72.0	0.32	-2.95
母親の体と心への理解	60.3	0.17	-6.48
子どもと遊び	76.4	0.16	-19.94

②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか

講座名	満足率	相関係数	改善度
講座の修了にあたって	40.1	0.46	8.69
子育て支援者がなぜ必要なのか	37.1	0.41	8.02
子どもの体の成長と心の発達	27.3	0.32	6.79
子育て中の家庭と子どもの理解	36.9	0.38	6.28
板橋区の子育て社会資源と有効活用	43.2	0.43	3.58
オリエンテーション	28.5	0.25	0.94
配慮の必要な子どもの理解	44.3	0.37	-1.68
子どもの生活への対応	43.4	0.34	-3.08
子育て支援者の役割と倫理	47.5	0.38	-3.27
子育て中の親と子どもへの支援	45.1	0.34	-5.33
子どもと遊び	44.7	0.33	-5.82
実習コース別	50.3	0.36	-6.53
母親の体と心への理解	35.6	0.21	-6.88

③テキストはわかりやすかったですか

講座名	満足率	相関係数	改善度
講座の修了にあたって	48.6	0.48	15.47
子どもの体の成長と心の発達	38.3	0.31	7.40
子育て中の家庭と子どもの理解	48.0	0.39	6.85
子どもの生活への対応	53.6	0.44	5.72
子育て支援者がなぜ必要なのか	51.0	0.38	3.70
配慮の必要な子どもの理解	57.5	0.46	3.67
板橋区の子育て社会資源と有効活用	60.6	0.45	0.92
子育て支援者の役割と倫理	58.9	0.37	-3.83
実習コース別	55.7	0.34	-4.35
オリエンテーション	56.2	0.33	-5.66
母親の体と心への理解	56.2	0.31	-7.02
子育て中の親と子どもへの支援	60.0	0.32	-12.02
子どもと遊び	60.6	0.27	-16.71

④講義内容に満足できましたか

講座名	満足率	相関係数	改善度
オリエンテーション	37.6	0.46	17.84
講座の修了にあたって	45.5	0.50	13.67
子どもの体の成長と心の発達	33.7	0.34	6.12
子育て支援者がなぜ必要なのか	51.2	0.46	5.60
子育て中の家庭と子どもの理解	48.3	0.42	4.72
板橋区の子育て社会資源と有効活用	52.3	0.44	2.66
母親の体と心への理解	45.6	0.35	0.19
子どもの生活への対応	51.5	0.39	-0.46
子育て支援者の役割と倫理	58.9	0.41	-3.44
配慮の必要な子どもの理解	56.6	0.34	-10.19
子育て中の親と子どもへの支援	55.8	0.31	-10.97
実習コース別	59.9	0.33	-13.52
子どもと遊び	61.4	0.29	-19.40

表Ⅲ. 全講座全評価項目別改善度

	満足率	重要度	改善度
④講義内容の満足度（オリエンテーション）	37.6	0.46	18.42
②あなた自身の課題とニードの達成度（講座の修了にあたって）	40.1	0.46	16.21
④講義内容の満足度（講座の修了にあたって）	45.5	0.50	14.06
②あなた自身の課題とニードの達成度（子育て支援者がなぜ必要なのか）	37.1	0.41	12.06
②あなた自身の課題とニードの達成度（板橋区の子育て社会資源と有効活用）	43.2	0.43	11.87
③テキストのわかりやすさ（講座の修了にあたって）	48.6	0.48	10.41
②あなた自身の課題とニードの達成度（子育て中の家庭と子どもの理解）	36.9	0.38	9.15
②あなた自身の課題とニードの達成度（子どもの体の成長と心の発達）	27.3	0.32	8.08
④講義内容の満足度（子育て支援者がなぜ必要なのか）	51.2	0.46	7.91
④講義内容の満足度（子育て中の家庭と子どもの理解）	48.3	0.42	6.77
④講義内容の満足度（子どもの体の成長と心の発達）	33.7	0.34	6.67
③テキストのわかりやすさ（子育て中の家庭と子どもの理解）	48.0	0.39	5.52
④講義内容の満足度（板橋区の子育て社会資源と有効活用）	52.3	0.44	5.42
③テキストのわかりやすさ（子どもの生活への対応）	53.6	0.44	4.85
②あなた自身の課題とニードの達成度（配慮の必要な子どもの理解）	44.3	0.37	4.74
②あなた自身の課題とニードの達成度（子育て支援者の役割と倫理）	47.5	0.38	4.64
③テキストのわかりやすさ（配慮の必要な子どもの理解）	57.5	0.46	4.35
①講義の理解度（講座の修了にあたって）	54.9	0.42	3.20
②あなた自身の課題とニードの達成度（子どもの生活への対応）	43.4	0.34	3.12
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか（オリエンテーション）	28.5	0.25	3.04
③テキストはわかりやすかったですか（子どもの体の成長と心の発達）	38.3	0.31	2.84
③テキストはわかりやすかったですか（子育て支援者がなぜ必要なのか）	51.0	0.38	2.71
③テキストはわかりやすかったですか（板橋区の子育て社会資源と有効活用）	60.6	0.45	2.69
④講義内容に満足できましたか（子どもの生活への対応）	51.5	0.39	2.65
④講義内容に満足できましたか（母親の体と心への理解）	45.6	0.35	2.50
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか（子育て中の親と子どもへの支援）	45.1	0.34	1.79
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか（実習（コース別）	50.3	0.36	1.74
②あなた自身の学習課題・ニードは達成されましたか（子どもと遊び）	44.7	0.33	1.58
④講義内容の満足度（子育て支援者の役割と倫理）	58.9	0.41	0.46
③テキストのわかりやすさ（子育て支援者の役割と倫理）	58.9	0.37	-1.50
①講義の理解度（子どもの体の成長と心の発達）	36.6	0.22	-2.03
①講義の理解度（子育て支援者がなぜ必要なのか）	63.6	0.39	-2.10
②あなた自身の課題とニードの達成度（母親の体と心への理解）	35.6	0.21	-2.20
③テキストのわかりやすさ（実習（コース別）	55.7	0.34	-2.88
④講義内容の満足度（配慮の必要な子どもの理解）	56.6	0.34	-3.28
①講義の理解度（子育て中の家庭と子どもの理解）	56.9	0.34	-3.72
③テキストのわかりやすさ（オリエンテーション）	56.2	0.33	-4.33
④講義内容の満足度（子育て中の親と子どもへの支援）	55.8	0.31	-5.32

	満足率	重要度	改善度
③テキストのわかりやすさ（母親の体と心への理解）	56.2	0.31	-5.52
①講義の理解度（子育て支援者の役割と倫理）	70.9	0.39	-5.66
④講義内容に満足できましたか（実習（コース別）	59.9	0.33	-6.00
③テキストのわかりやすさ（子育て中の親と子どもへの支援）	60.0	0.32	-7.09
①講義の理解度（板橋区の子育て社会資源と有効活用）	71.2	0.35	-8.82
①講義は理解できましたか（配慮の必要な子どもの理解）	70.4	0.32	-11.23
④講義内容の満足度（子どもと遊び）	61.4	0.29	-11.47
③テキストのわかりやすさ（子どもと遊び）	60.6	0.27	-11.70
①講義の理解度（子どもの生活への対応）	66.8	0.30	-11.73
①講義の理解度（実習（コース別）	72.0	0.32	-11.81
①講義の理解度（子育て中の親と子どもへの支援）	65.7	0.30	-11.86
①講義の理解度（オリエンテーション）	64.2	0.28	-13.78
①講義の理解度（母親の体と心への理解）	60.3	0.17	-17.24
①講義の理解度（子どもと遊び）	76.4	0.16	-31.23

満足率は「大いに満足」と回答した割合

重要度は総合評価（総合的満足度得点との各項目得点の単相関係数）

改善度はCS分析による結果で、数字の大きい物ほど改善の余地がある。

すなわち、改善することにより、総合的満足度をさらに高めることができる。

地域における住民参画と保健と福祉の協働
—地域子育てネットワーク活動の多様化と各方面との連携の広がり—

研究協力者 加藤 則子 国立保健医療科学院生涯保健部長

研究要旨 地域における住民参画と保健と福祉の協働のあり方を探るために、埼玉県和光市に存在する NPO 法人わこう子育てネットワークを通じ情報収集を行った。和光子育てネットワークおよび活動事業もくれんハウスは、すでに活動が定着しているところであるが、さらに広い団体とつながり、活動の幅を広げていることが分かった。和光市内の様々な団体を取りまとめ、父親の会を育て、さらに県レベルのイベント企画の中での子育て広場の実施に手を挙げた。このように広がっていく住民の運動に保健福祉行政が強力なバックアップを行うことで、協働が実現するものと考ええる。

協力研究者

森田圭子 NPO 法人わこう子育てネットワーク代表

A. 研究目的

「健やか親子21」の第4課題「子どもの安らかな心の発達の促進と育児不安の軽減」を推進するために、地域の子育てネットワーク団体の活動の一環として、子育てプログラムを導入し、乳児から思春期までの心の健康、育児不安の軽減、虐待の早期発見と防止に対応する支援システム構築のあり方をさぐる。

埼玉県和光市で活動を続ける NPO 法人わこう子育てネットワークは、その活動がすでに定着していることが明らかとなっているが、さらに外の団体とつながって活動を展開している状況を明らかにし、保健と福祉の共同のあり方を探る。

B. 研究方法

埼玉県和光市に存在する NPO 法人わこう子育てネットワーク代表を通じ情報収集を行った。

1. 子育てネットワーク活動のジャンルの広がりについて把握する
2. 市内および県内の他の団体とのネッ

トワーク形成や活動状況について把握する。

C. 研究結果

1. 他の団体との協働の状況について
(参考資料1参照)

聞き取り状況は以下のとおりである：

『和光市内の他ジャンルの団体と連携し子育てしやすいまちづくりに取り組んでいます。今年初めて和光市内のほかの NPO との連携に取り組み「コラボ和光」という団体を作り、地域の子育て力を育てることを目的とした事業に取り組み始めています。子育ては子どもが育ってくるにしたがって、地域とのつながりが深くなってきます。私たちの活動の目的そのものも子育て支援の充実から子育てしやすいまちづくりへ変貌してきました。子どもが育ってくるにつれて子どもが小さかったころからの地域のつながりがどれだけ子どもにとって大切かを感じるが多くなってきました。思春期

になってからではなかなかつながりにくいと思うときに子育て支援とコミュニティづくりは早いうちからはじめたほうがいいものだと思うことが増えてきました。特に和光市のような地元の出身者が少ない、地縁の少ない場所に住んでいる人が多い地域では、世代を超えたコミュニティはなかなかできてきません。そこで和光市の中でまちづくりを行っている団体、世代間の交流会を催している団体、子ども関連団体と手をつなぎ、地域での活動と世代別に囲い込まないネットワーク作りをはじめています。ブログを立ち上げています。

<http://blog.goo.ne.jp/wakuwaku-wako>

2.活動内容の多様化について

(参考資料2 参照)

聞き取り状況は以下のとおりである：

『父親のネットワークが育っています。4年前からやきいもタイムと銘打ち父親が主になって集まりながら父親もネットワークができていくというような企画を続けています。もともとはさいたま市のハンズオンという NPO が県の事業として始めた企画ですが、もともとハンズオンとは縁が深くもあったため、昨年度末にはハンズオンと共催で和光市のにいくらふるさと民家園という古民家のある場所で県内の父親のフォーラム開催を手伝いました。

そのような企画の中で父親のネットワークも強まり、わここの父親ネットワークは「わここのパパ組」として BBQ を主催したり、市民祭りでわここの堂という昔遊びのある駄菓子屋を出店したりもしています。地域密着型のパパのネットワークです。

今巷で流行のパパ検定みたいな派手な動きではありませんが、ぼちぼち活動を続け、もくれんハウスの第③土曜日の開所日ファイミリーデイにはパパサロンを開催したりもしています。

<http://homepage3.nifty.com/viberge/wakopapa/dmz/> 』

3.県等の大きな団体との連携

(参考資料3 参照)

聞き取り状況は以下のとおりである：

『もくれんハウスの活動をベースにしたネットワークが広がってきています。つどいの広場は全国に今たくさん作られはじめていて、もくれんハウスにも多くの方が視察にいらっしゃったり、研修でもくれんの事例をお話しすることも多く、その中で広がってきた全国の仲間たちとのネットワークが活発になってきています。今年は県民の日(11月14日)に県庁で一日限定で出張つどいの広場を運営させていただくことになりました。名前は「コバトンハウス」です。』

D. 考察

和光子育てネットワークの活動方針は、世代の垣根を超えたものとなっており、そのような広い視野に立つことにより、子育て中の親を繋ぐ機能から、地域作りの原動力へと大きく変容していると考えられる。

県庁でのイベントにも積極的に手をあげて、県レベルでの活動としてアピールしてゆけるところは、広いネットワークを持っている背景があつてこそである。

また、父親のネットワークの主体性を重んじて、自由な活動を見守ってゆくことにより、最善の支援のしかたを実践できると言える。

外国人の親子の支援の活動などがこれらの活動を基礎として新たな展開を見せることが期待できる。

このように広がっていく住民の運動に保健福祉行政が強力なバックアップを行うこ

とで、協働が実現するものとする。

E. 結論

住民参画の推進と福祉と協働した地域全体の子育て機能の向上が最大の課題であるとの認識のもとに地域の支援システムと住民が重なり合って、地域全体の子育て機

能を向上してゆくことが重要である。

和光市内の様々な団体を取りまとめ、父親の会を育て、さらに県レベルのイベント企画の中での子育て広場の実施に手を挙げるなど、和光子育てネットワークの活動は「目覚ましい展開を見せている。住民の運動に保健福祉行政が強力なバックアップを行うことで、協働が実現するものとする。

★ 市内で活躍する NPO 活動団体

団体名	「学びあい、支えあい地域活性化推進事業和光実行委員会(通称 コラボ和光)」		
代表者名	森田 圭子		
住所	(非公開)		
連絡先	080-5510-7580(わこう子育てネットワーク平日 9 時～17 時) もしくは 080-5684-8222(和光市世代間交流会)	FAX	
E メール	wakuwaku-wako@mail.goo.ne.jp		
HP アドレス	http://blog.goo.ne.jp/wakuwaku-wako		
団体の活動目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の急激な変化に伴う住民同士の連帯感の欠如や人間関係の希薄化等による地域低下に対応するため、住民がボランティア活動や家族参加の体験活動、地域の様々な仕組みながら解決する活動を通して、住民同士の絆を再生する 2. あらゆる世代が出会い、交流し、共同する場をまちのあちこちにつくりだすことにより、多くの人たちが楽しくまちづくりに参画できるまちにしてい 3. 人から人へ、また世代から世代へと地域の文化やくらしの知恵、生きることの喜びを伝 4. 市内で活動する多様な団体・人が交流し連帯して楽しくまちづくり活動を進める 		
活動分野	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健・医療・福祉 2 社会教育 3 まちづくり 4 学術・文化・芸術・スポーツ 5 環境保全 7 地域安全 	<ol style="list-style-type: none"> 8 人権・平和 10 男女共同参画 11 子供の健全育成 12 情報化社会 17 NPO 支援 	
団体設立日	2007-07-	活動開始日	2007-07-

活動アピール	<p>わこう子育てネットワーク、和光市世代間交流会を中心に、和光市古民家愛好会等、市内の市民活動団体が連携した共同事業として、文部科学省「学びあい、支えあい地域活性化推進事業」に取り組みます。</p> <p>思いと力を寄せ合って、和光市を、さまざまな世代の人たちが出会い触れ合う場所がまちのそここにあるような、楽しいまちにしていく活動に取り組みます。今年度は、『世代から世代へと伝える土と命の手触り・農作業体験』と『地域の遊び場を考える・冒険遊び場と遊びを通したまちづくり』を二本柱として、楽しく活動していきたいと思ひます。</p>
--------	--

子育て支援の実践

2007年1月

父親の育児参加は地域の仲間づくりから

(小林 貴博/NPO 法人わこう子育てネットワーク理事・「パパ組」)

1. 「やらされる子育て」って楽しくない

「父親の育児参加」の重要性がいわれ、その必要性を感じている男性は少なくありません。にもかかわらず、事態がなかなか好転しないのは、職場環境の問題が大きいと思いますが、同時に父親自身における意識も少なからず影響していると感じます。夫婦で子育てすることの重要性を感じつつ、なかなかその第一歩が踏み出せない。妻に要求されるのでしかたなくやっているが、「やらされ感」が強く充実感がない、と感じている男性も多いのではないのでしょうか。

「やらなきゃいけないな～」という後ろめたさ、「やるのが当然でしょ」という妻の目、そういうものを前提におずおずと子育てに参加したとしても、つまるところ、「楽しくない」んですよね。楽しくないけど無理してがんばってやる、子どものためにやる、親の務めだからやる、そういう感覚で続けていると、だんだんイライラしてきて、つい子どもにあたってしまったり、そのことで落ち込んだり……。これって、いまどきのおかあさんたちが陥る育児スランプと同じ構造です。

2. 子育て当事者による相互支援ネットワークの設立

私の住む和光市は、東京都に隣接し都心への交通も便利なため、若い核家族が急増しており、それに伴って子どもの数も増えています。子どもが多い地域ですが、子育てしやすい地域かということとはなく、よその土地から移り住んで来て、近隣に知り合いも親戚もおらず、子育ての心配事を相談したり、協力してもらえる人もいない。交通事故や防犯上の心配から、子どもを安心して外で遊ばせることもできず、週末はジャスコやイトーヨーカドーくらいしか行くところがない。